

資料—4

尾原ダム水源地域ビジョンにおけるプロジェクト（案）

1. プロジェクトの体系化（案）
2. プロジェクトの整理（目的・場所・取組内容）（案）

平成 25 年 1 月 17 日

尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

1. プロジェクトの体系化（案）

さくらおろちを活性化する会において、抽出された守りたい資源や活かしたい資源、取組を分類・整理し、取組（プロジェクト）の体系化を行いました。
なお、体系化にあたっては、重複や関連するプロジェクトを統合してまとめました。

基本方針	大分類	プロジェクトの分類（26分類）	プロジェクト（55プロジェクト）
水源地域を結び、拓く	I 人材の活用	(1) 人材の活用	(1)-1 人材の発掘・活用 (1)-2 接客技術（おもてなしの心）の向上 (1)-3 教育機関（大学等）との連携
	II 組織の整備	(2) 組織の整備	(2)-1 関連事業・組織との連携 (2)-2 リーダーの育成
	III 企業との連携	(3) 企業との連携	(3)-1 企業との連携（CSR 活動）
	IV 斐伊川流域圏の連携	(4) 斐伊川流域圏の連携	(4)-1 下流域からの支援 (4)-2 上下流交流 (4)-3 流域圏交流
	V 情報発信	(5) 情報発信	(5)-1 情報発信の促進（ホームページ、カレンダー、案内標識） (5)-2 フィルム・コミッションの推進
流域圏の恵みの源を守り、育む	VI 環境の保全	(6) 森林の保全・維持管理活動	(6)-1 森林の整備・管理 (6)-2 ボランティア活動の実施
		(7) 河川の水質の保全	(7)-1 水質の保全 (7)-2 ビオトープの整備
		(8) 生物の生息環境の保全	(8)-1 生息環境の保全（動物、植物） (8)-2 外来種、害獣、害鳥対策
		(9) 環境学習会等の開催	(9)-1 環境学習会の開催（森林、水質・水生生物、ホタル） (9)-2 体験プログラムの企画・開催（間伐・農業体験）
	VII 景観保全・整備	(10) ダム湖周辺や水辺の景観の保全・整備	(10)-1 ビューポイントの発掘・活用（ワカサギ、のぼり） (10)-2 クスやカスラ等の対策・駆除、竹ボットの管理 (10)-3 ダム湖周辺の植栽（サクラ、ドウダンツツジ）
さくらおろちの魅力を磨き、活かす	VIII 自然環境の活用	(11) 農村や周辺の景観の保全・改善	(11)-1 農地保全の仕組みづくり (11)-2 農村景観の向上（ミックスフラワー）
		(12) 森林の保全・活用	(12)-1 森林の利用促進（森林セラピー・森の保育園）
	IX ダム周辺の既存施設の活用	(13) ダム本体の活用	(13)-1 尾原ダムの魅力発掘（ライトアップ、クレスト放流等） (13)-2 日本一プロジェクト
		(14) サイクリング施設の活用	(14)-1 サイクリングコースの活用・PR（認定コース、ショートコース） (14)-2 レンタサイクルの実施 (14)-3 サイクリングコースの改善
		(15) さくらおろち湖の活用	(15)-1 湖面利用の活性化（水陸両用バス、シーカヤック、巡視体験） (15)-2 さくらおろち湖の魅力発信 (15)-3 釣り利用（PR・大会・施設整備）
		(16) 既存施設等の活用	(16)-1 芝生広場等の利用促進 (16)-2 農村研究施設の利用促進 (16)-3 ホースセラピーの利用促進 (16)-4 街道・登山道の活用（殿様街道、岩伏山） (16)-5 利用ルールの策定・周知（湖面利用の手引き等） (16)-6 新たな活用策の検討（星空観察会、ドックラン等） (16)-7 イベントの企画・立案（交流、花火等）
	X 歴史・文化の継承	(17) 神話の継承・活用	(17)-1 出雲神話の活用・PR（マップ作り、関連ツアー）
		(18) 郷土料理の継承・活用	(18)-1 郷土料理の継承・活用（焼豆腐、イノシシ料理等） (18)-2 モニターツアーの開催
		(19) 地域文化の継承・活用	(19)-1 古民家の活用
	XI 新たな魅力・資源の発掘	(20) 新たな魅力・資源の発掘・活用	(20)-1 温泉の活用（スタンブラリー）
		(21) 「地域全体」の発掘・活用	(21)-1 観光資源の再整理 (21)-2 地域体感ツアーの開催
		(22) 漁業資源の育成と活用	(22)-1 漁業資源の創出（ワカサギの放流）
		(23) 特産品の開発・販売	(23)-1 特産品の開発・販売促進
	XII 交流イベント（既存）の開催	(24) 湖面イベントの開催	(24)-1 ボート大会の活性化
		(25) 湖畔イベントの開催	(25)-1 音楽イベントの開催 (25)-2 サイクリングイベントの開催 (25)-3 さくらおろち湖祭りの開催
		(26) 周辺イベントの開催・継続	(26)-1 そばうち交流会の開催 (26)-2 トレイルランニングの開催

赤字：新規プロジェクト（36）、黒字：既存プロジェクト（19）

2. プロジェクトの整理（案）

前ページで整理した「取組（プロジェクト）の体系化（案）」をもとに、プロジェクトの具体的な内容（実施時期・目的・場所・実施内容）を整理しました。

実施内容の整理にあたっては、さくらおろちを活性化する会が出された意見をもとに、水源地域ビジョンの取組内容として相応しい内容となるようとりまとめました。

基本方針１：水源地域を結び、拓く

水源地域の多様な関係者の結びつきによって取組の体制を充実し、地域の自立的・持続的な発展を拓いていきます。

大分類Ⅰ 人材の活用

プロジェクトの分類(1) 人材の活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(1)-1 人材の発掘・活用	短期 （先行）	人材の活用 人材の育成	水源地域	・水源地域の活性化に向けた技術や、知識、知恵を持った <u>人を発掘</u> していきます。	新規	新規	・技術や、知識、知恵を持った地域の人を活かす。	C
				・発掘した人材を有効活用するための <u>人材バンク</u> （データベース）の <u>構築</u> を検討します。	新規		・これまでに挙げられた様々な地域資源を守り、活かしていくためには、総じて「継続」、「マンパワー」、全体を繋ぐ「ストーリー」が必要である。	C
							・情報交換の場となる人材バンクを組織する。	C
(1)-2 接客技術（おもてなしの心）の向上	後期	接客技術の向上	水源地域	・ <u>接客セミナーや研修等を実施</u> することにより観光客への接客マナーの向上に努め、観光の担い手を育成します。	新規	新規	・地域の人のおもてなしの心、ウェルカムな気持ちを連携させ、相乗効果を発揮させる。	C
(1)-3 教育機関（大学等）との連携	短期 （先行）	教育機関との連携 人材の確保	島根大学 島根県立大学	・ <u>地元の大学や研究機関等と連携</u> して、水源地域の活性化に関するプログラムの開発や助言、各種イベントへの学生の呼び込みなどを行います。	既存	新規	・島根大学、島根県立大の学生にイベントに協力してもらっており、今後一層の学生との協働関係を築いていく。	A
				・学生と地域のニーズをマッチングさせるシステム作りを検討し、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を整備します。	新規		・学生に企画してもらう機会を提供する。	B
							・学生に手伝ってほしいことと地域のニーズをマッチングさせるシステムづくりを検討する。	B
				・学生によるボランティア活動を実施しやすくするために、「ビビットカード※」制度の認定などを目指していきます。 ※ビビットカード：ボランティア活動やサークル活動などの正課以外(単位認定されるものを除く)の諸活動に対して、ポイントが与えられ、ポイントに応じて特典が受けられるカードです。	新規		・小学校向けの体験学習（2泊3日程度）を、島根大 学生と協働で実施する。	B
							・農地の保全に大学生ボランティアを活用する。	C
							・島根大学や島根県立大学などの学生を、農地保全や草刈りボランティアなどに呼び込む。	C
							・学生のボランティア活動を支援する「ビビットカード」制度の対象活動として、大学の授業化を図る。	C

大分類Ⅱ 組織の整備

プロジェクトの分類(2) 組織の整備

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(2)-1 関連事業・組織との連携	後期	活動の継続 周辺地域との連携	水源地域	・水源地域内で個々に活動している <u>団体の連携</u> を図っていきます。	既存	新規	・命の絆プロジェクトが実施されており、他の地区の人 も巻き込む。	A
				・ <u>下流域や広域で活動している活動団体との連携</u> の促進、志津見ダム水源地域ビジョンに関連する各種団体との連携も促進していきます。	新規			
(2)-2 リーダーの育成	短期 （先行）	リーダーの育成 活動の継続	水源地域	・水源地域ビジョンで検討された活動を継続して推進していくために、活動の <u>リーダーを育成する仕組みづくり</u> を推進していきます。	新規	新規	・リーダーを育成する仕組みをつくる。	C

大分類Ⅲ企業との連携

プロジェクトの分類(3)企業との連携

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(3)-1 企業との連携（CSR 活動）	中期	活動の継続	水源地域 斐伊川流域	・水源地域の活性化を流域として継続していくために、流域内の企業が実施する CSR 活動 （企業の社会的責任） と連携 し、水源林の間伐などを平成 24 年度から「命の絆プロジェクト」が実施しています。	既存	既存	・企業をCSR活動等で取り込む。	A

大分類Ⅳ斐伊川流域圏の連携

プロジェクトの分類(4)斐伊川流域圏の連携

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(4)-1 下流域からの支援	中期	下流域との連携	斐伊川下流域	・水源地域の環境を保全していくために、 下流域からの支援が獲得できるような仕組み を検討していきます。	新規	新規	・下流域の水質を守るためにも、下流域の支援をお願いしたい。	B
				【参考取組（例）】			・後世に繋げていくために、地域内や上下流間での交流を深め、皆で守る。	C
				・下流域の市民がスポンサーになり、水源地域の農地を保全していく仕組みづくりなどを検討していきます。			・下流域の市民がスポンサーとなり上流域で農業をする仕組みづくりを検討する。	B
(4)-2 上下流交流	短期 （先行）	下流域との連携	水源地域 斐伊川下流域	・上下流交流を通じた水源地域の活性化を推進していくために、尾原ダム周辺で整備されたスポーツ施設を活用した スポーツ交流 や、水源林を活用した「森の幼稚園」活動などの実施を検討していきます。	既存	既存	・自然体験を基軸にした「森の保育園」に取組み、下流域の子どもとの交流の場として活用する。	B
				・ イベントや交流ツアー など様々な方法で上下流交流を活発化していきます。	既存	既存		
(4)-3 流域圏交流	短期 （先行）	流域圏の連携	斐伊川流域圏	・尾原ダムの魅力を活かし、 バランスの取れた流域圏の発展 を図るために、流域内で実施されている活動や団体との連携を深化させていきます。	新規	新規	・尾原ダムの施設を活かしたスポーツ交流を通して、更なる上下流交流につなげる。	C
				・志津見ダム水源地域で活動されている団体と連携した情報発信や、連携イベントの開催などを検討していきます。	新規	新規		
				・広域的に連携した観光ルートを創造し、広く PR していきます。	新規	新規		

大分類Ⅴ情報発信

プロジェクトの分類(5)情報発信

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(5)-1 情報発信の促進（ホームページ、カレンダー、案内標識）	短期 （先行）	水源地域の魅力の発信	水源地域	・ 水源地域の情報を発信するホームページ に水源地域の自然環境や魅力、イベント情報、学習情報、特産品情報、活動情報などを発信していきます。	既存	新規	・観光客などを対象に、山で採れる食材や採取可能な場所を伝えるための「食のカレンダー」をまとめていく。	B
				・各種イベントや 地域マスメディア （ケーブルテレビ・新聞社等）、各種情報誌に水源地域に関する情報を積極的に発信していきます。	既存	新規	・スポーツ選手が練習していることを発信する（例：野球のキャンプなど）。	B
				・尾原ダム周辺の 案内標識 を整備していいいます。	新規	新規	・HP を見やすく改善する。	B
(5)-2 フィルム・コミッションの推進	中期	水源地域の魅力の発信 新しい魅力の創造	水源地域	・水源地域の魅力を広く発信していくために、尾原ダムや周辺施設などを活用した映画やドラマなどを誘致する フィルム・コミッション を推進していきます。	新規	新規	・ダム周辺をロケーションにした映画製作を PR する（例：映画「うん、何？」）。	

基本方針 2：流域圏の恵みの源を守り、育む

斐伊川流域圏の暮らしや産業の恵みの源である水源地域の森や水などの自然環境を守り、育んでいきます。

大分類Ⅵ環境の保全

プロジェクトの分類(6)森林の保全・維持管理活動

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(6)-1 森林の整備・管理	短期 （先行）	森林の保全 上流部の森林の整備	水源地域の森林	・斐伊川や流域の河川の水質を保全するために、 上流部の森林の整備 を推進します。	新規	新規	・水質を管理するために上流部の山を整備し、流れ込む水をきれいにする。	A
				・奥出雲町が実施している「 バイオマスタウン構想 」と連携し、竹林や林地残材のチップ化を推進します。	既存		・広葉樹の植林や維持管理を行う。	A
							・バイオマス事業では、今年から奥出雲町で機械を導入して竹チップの製造を実施している。	B
(6)-2 ボランティア活動の実施	中期	森林ボランティアによる森林の保全	水源地域の森林	・下流域の住民や小学生の森林ボランティアによる森林の草刈りや間伐、里山の手入れなど、 森林の保全の仕組み を検討していきます。	新規	新規	・森林ボランティアの動員を図る。	A
							・小学生ボランティア等による草刈りを検討する。	A
				・降雨後にさくらおろち湖へ流入する流木を ボランティアが回収する仕組み を検討します。	新規		・流木回収作業をボランティアで可能か検討する。	B
							・降雨直後に、ダム湖の流木を提供する。	B

プロジェクトの分類(7)河川の水質の保全

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(7)-1 水質の保全	後期	水質の保全	各家庭	・水質の保全を図るため、 家庭からでる廃食油の回収・リサイクルなどを推進 します。 【参考取組（例）】 ・他地域で実践されている活動を参考とし、各家庭に水質の保全を広げていきます。	新規	新規	・（琵琶湖で行われている事例を参考として）地域住民が油を出さない活動を行う。	B
(7)-2 ビオトープの整備	中期	水質浄化 環境保護の啓発活動	さくらおろち湖 周辺	・さくらおろち湖に流入する水質の改善や、環境保全に対する地域住民の意識向上のために、さくらおろち湖周辺に ビオトープを整備 します。	新規	新規	・下流域の水質浄化と環境保護の啓発を兼ねて、ダム周辺にビオトープを整備する。	A

プロジェクトの分類(8)生物の生息環境の保全

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(8)-1 生息環境の保全（動物、植物）	短期 （先行）	生息環境の保全	ダム周辺の河川 （三沢川など） ダム周辺地域	・水源地域に生息する ホタルの生息環境を保全 するために、河川の清掃活動や、餌となるカワニナの放流などを継続していきます。	既存	既存	・動物と共生するための安全対策が必要である。	B
							・河岸のキシツツジの保全を検討する。	A
							・ホタルを守るため、三沢川の清掃を実施する。	A
				・河川環境の保全のシンボルである キシツツジなどの動植物の保全活動 や、人と動物が共生するための安全対策の検討も推進していきます。	既存		・実施されているホタルの保全活動を継続する。	B
(8)-2 外来種、害獣、害鳥対策	短期 （先行）	外来種対策 害獣、害鳥対策	さくらおろち湖	・ブラックバスを始めとした 外来魚の放流が法律により禁止されていることを周知 していきます。	新規	新規	・外来種を捕獲する動機付けの仕組みを検討する。 （例：捕獲によりポイントがたまり、何かと交換できる仕組み）	A
				・ 外来種を捕獲するための仕組みづくり を検討していきます。	新規		・カワウの糞害対策の実施を検討する。	A
				・森林や漁業資源に被害をもたらすカワウなどの 害獣、害鳥対策 を試行していきます。	新規		・外来種の放流は違法である（罰則がある）ことを周知する。	A

プロジェクトの分類(9)環境学習会等の開催

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(9)-1 環境学習会の開催（森林、水質・水生生物、ホタル）	短期（先行）	自然環境への意識啓発 環境学習の場の提供	ダム周辺の河川 さくらおろち湖 ダム下流部 水源地域の森林	・さくらおろち湖や周辺の河川、森林への関心を促すために、「 環境学習会 」を開催します。	既存	既存	・環境学習会を開催し意識啓発を図る。	A
				・ 子供たちの夏休みの研究や自然観察会のフィールド として活用していきます。	既存		・意識づけのための学習会や自然観察会などを行う。	C
				・さくらおろち湖周辺に生息する ホタル の観察ポイントの整備や観察会の開催、ホタル（カワニナ）の生息環境と水質の関係の学習会の開催などを実施していきます。	既存		・ダムや周辺の河川など、子どもたちの夏休みの研究や自然観察会のフィールドや題材にする。	C
							・暗い場所でのホタル観察ポイントづくりを行う。	C
							・カワニナの生息に適した水質（水質階級B：少し汚い程度の水質）を確保することを通し、水質と生き物との関係性の学習につなげる。	C
							・ホタルの季節に、ホタル観察会を開催する。	C
							・ダム下流付近は流れが緩くホタル観察によいポイントであることをPRする。	C
(9)-2 体験プログラムの企画・開催（間伐・農業体験）	短期（先行）	森林や農地の保全への意識啓発 体験学習の場の提供	水源地域の森林 水源地域の農地	・水源地域の森林の保全への意識を啓発するために、 間伐や、材木を活用したものづくりの体験プログラム を企画・実施していきます。	既存	既存	・野菜づくりを通した農業体験ツアーを充実する。	A
				・合宿形式の 自然体験ツアー を企画・実施していきます。	既存		・間伐やものづくりの体験プログラムを企画する。	B
				・水源地域の休耕田等を活用した 農業体験ツアー の実施や、既に実施している「 柿採りと干し柿づくり 」を推進していきます。	既存		・「柿採りと干し柿づくり」をする地域交流の取組みを実施している。	B
							・合宿形式の自然体験型ツアーを行う。	C
							・農業体験ツアーを開催する。	C

大分類Ⅶ景観保全・整備

プロジェクトの分類(10)ダム湖周辺や水辺の景観の保全・整備

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(10)-1 ビューポイントの発掘・活用（フォトスポット、おろちのぼり）	短期（先行）	ダム周辺の景観向上 ダム湖の魅力発掘	さくらおろち湖 さくらおろち湖周辺	・さくらおろち湖周辺の良好な景観を発信し、魅力を向上させるために、さくらおろち湖周辺の ビューポイント・写真撮影スポットを発掘 していきます。	新規	新規	・鯉のぼりの代わりにオロチのぼりを作って特色を出す。	B
				・ ビューポイントを設置 していきます。	新規		・ビューポイントの設置を検討する。	A
				・季節に応じて見ごろを迎える紅葉やサクラ、新緑などを活かした 写真撮影会の開催 や、 湖畔や橋に鯉のぼり （オロチのぼり） を掲げる など、さくらおろち湖の魅力を発信していきます。	新規		・ダム下流側から撮る写真スポットを検討する。	B
							・ダムや上流側の風景を活かした写真撮影会などを企画する。	B
							・紅葉やサクラを背景としたビューポイントを発掘する。	B
							・ダムに鯉のぼりを掛けて写真撮影する。	B
(10)-2 クズやカズラ等の対策・駆除、竹ポットの管理	短期（先行）	ダム周辺の景観向上	さくらおろち湖周辺	・さくらおろち湖周辺の景観を向上させるために、周辺の森林や斜面に繁茂する クズやカズラ等の駆除 を推進していきます。	新規	新規	・クズ対策を検討する。	A
				・クズやカズラ等の対策にあたっては、単純にクズやカズラ等を伐採するだけでなく、 クズ等の有効活用策 （根のレシピづくり、編みかごづくりなど） を検討 し、地域住民と楽しみながら対策出来る様な仕組みを構築していきます。	新規		・クズのおいしい食べ方を考える。	A
				・根本的な対策を検討していくために、 クズ除去等の対策部会の設置 や、専門家への聞き取り調査などをあわせて実施していきます。	新規		・カズラやクズの活用方法を検討する。	C
							・竹ポットを使った法面の植栽活動などのように、活動を「継続」する。	C
							・食用に使えるクズの根のレシピを作り、道の駅で掲示する。	A
							・クズ除去等の対策部会の設置や、大学など専門家に対策法を聞いて情報収集する。	A
							・クズを除去する動機付けを検討する。（編みかごづくり、刈ったツルの長さ競争等）	A

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(10)-3 ダム湖周辺の植栽（サクラ、ドウダンツツジ）	短期 （先行）	サクラやモミジ等の植樹によるダム周辺の景観向上	さくらおろち湖周辺	・平成 22 年度に策定された「 さくらおろち湖周辺植栽計画 」に基づき、サクラやモミジ等の適正な植樹活動を行います。	新規	新規	・「みーもの森づくり事業」助成金を活用して、スサノオ大橋付近にサクラやモミジの植栽を実施する。	A
				・ダム本体周辺に ドウダンツツジなどの植栽 を実施し、ダム本体の魅力を向上させていきます。	新規		・ダム本体付近左岸側に 1 町歩程度のドウダンツツジを植栽する。	A
				・植樹の推進にあたっては、様々な 助成事業を活用 していきます。	新規		・雲南市では 10 年間程サクラの植栽が計画されている。	C

プロジェクトの分類(11)農村や周辺の景観の保全・改善

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(11)-1 農地保全の仕組みづくり	中期	水源地域の景観向上 農地の保全 耕作放棄地対策	水源地域の農地	・水源地域の農村景観を保全していくために、維持管理が困難な農地を協力して 耕作していく仕組み を構築していきます。	新規	新規	・維持が困難な農地は皆で耕作する仕組みづくりに取り組む。	C
				・仕組みの構築にあたっては、 流域内の大学生等が農地保全や草刈りのボランティア として積極的に連携できるように呼びかけていきます。	新規		・島根大学や島根県立大学などの学生を、農地保全や草刈りボランティアなどに呼び込む。	C
(11)-2 農村景観の向上（ミックスフラワー）	短期	ミックスフラワー等の栽培による水源地域の景観向上 耕作放棄地対策	水源地域の農地	・水源地域内の耕作放棄地を減少させ、農村景観を改善していくために、 ミックスフラワー等を栽培 していきます。	新規	新規	・耕作放棄地にミックスフラワーを植え、農村景観を向上させる。	C

基本方針3：さくらおろちの魅力を磨き、活かす

さくらおろち湖と水源地域が有する歴史、文化、自然などの資源を魅力として磨き、活かしていきます。

大分類Ⅷ自然環境の活用

プロジェクトの分類(12)森林の保全・活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(12)-1 森林の利用促進(森林セラピー・森の幼稚園)	短期 (先行)	森林の利活用	水源地域の森林	・水源地域の森林環境を、心身の健康維持・増進、疾病の予防を目指す「森林セラピー」の場として活用していきます。さらに、森の香りや空気の清浄さ、美しい色彩や景観などが人の生理に及ぼす効果について、医学的に検証された「 森林セラピー基地 」となるよう水源林を整備していきます。	新規	新規	・ダム周辺の森林を森林セラピーの場として利用する。	A
				・自然環境の中での幼児教育や、幼児を対象とした自然体験活動などを実施する「 森の幼稚園 」を推進していきます。	既存		・自然体験を基軸にした「森の幼稚園」に取組む。	B

大分類Ⅸダム周辺の既存施設の活用

プロジェクトの分類(13)ダム本体の活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(13)-1 尾原ダムの魅力発掘(ライトアップ、クレスト放流等)	短期 (先行)	尾原ダムの魅力発掘 尾原ダムの魅力発信	尾 原 ダ ム （ 本 体 ・ 堤 頂 道 路 な ど ）	・ 尾原ダムの魅力を発掘 し、積極的に発信していきます。	既存	新規	・ダム本体の活用策を検討する。	B
				・尾原ダムの魅力を向上させるために、 ライトアップやイルミネーション、クレスト放流の実施 などを検討していきます。	新規		・ダム本体の構造美を PR する取組を行う。	C
							・小中学生による写生大会やダ学習教材として、積極的な利用を呼びかける。	A
				・各種イベントに合わせて実施している ダム施設の見学ツアー を積極的に開催します。	既存		・レーザー光線などのライトアップを実施する。	A
							・冬季のライトアップやイルミネーション装飾を実施する。	A
							・堤体をライトアップして、暗さを活かした取組（星空やホタル観察）とのギャップを売りにする。	C
				・写生大会など、ダム本体の学習教材としての活用や、ビューポイントとの連携、ダムカードの活用、情報端末の活用など、 尾原ダムが有する資源・特徴を発掘・発信 していきます。	新規		・雪解け時に行われるクレスト放流を活用する。	A
							・クレスト放流（春）のイベント化（ダム開きなど）を検討する。	A
							・ダム湖の放水は、水位を下げる冬から夏のタイミングで実施する。実際に今年の3月に放水している。	B
				・ ダムの活用 について様々な可能性（ダムのビューポイント探し、フォトコンテスト、ダム本体に絵を描く企画、無料オートシアター、ロッククライミングなど）を追求していきます。	新規		・放水は迫力があるので、いい写真が撮れるイベントとして告知する。	B
							・ダム施設の見学ツアーを開催する（現在はイベントに合わせた内部見学会を実施している。）。	B
							・堰堤を覗き込む場所など、ダムの凄さを体感する場所や仕掛けを検討する。	B
							・ダムカードの活用法を検討する。	C
							・無線で飛ばし、端末で写すなど、スマートフォンやユーストリームを活用する。	C
							・何らかのテーマを設定して、それに沿ったダムのビューポイント探しや、フォトコンテストを開催する。	C
							・ダム本体に絵を描く企画を検討する。	A
							・ダムへの壁画や壁画を利用したイベントを検討する。	B
							・プロボーズのサービス（プロジェクターで投影）を企画する。	B
							・無料オートシアターをダム下流側で開催する。	C
							・堤体に投影し車から見る野外上映会を開催する。	B
							・壁面でのロッククライミングを企画する。	B

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(13)-2 日本ープロジェクト	短期 （先行）	尾原ダムの魅力発掘 尾原ダムの魅力発信	尾原ダム（本体・堤頂道路など）	・尾原ダムの魅力を広く認知してもらうために、尾原ダム本体や堤体道路などを活用した「 日本ー 」を企画・実施していきます。	新規	新規	・ダム本体を活用したイベントを企画実施する。	B
							・堤体直線を活かしたイベントを企画実施する。	B
							・ダム天端 440mの直線を活かした取組などを検討する。	C
							・何をやるかを探すところから始める。	C
							・堤体海苔巻き日本ーなど何かの「日本ー」を目指す。	C
							・尾原ダムにある施設で日本ーや世界ーのものを活用する。	A

プロジェクトの分類(14)サイクリング施設の活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(14)-1 サイクリングコースの活用・PR（認定コース、ショートコース）	短期 （先行）	サイクリングコースの魅力発信 サイクリングコースの活用	サイクリングコース（認定コース、ショートコース）	・サイクリングコースの魅力を広く発信するために、「観光庁ランナースインフォメーション研究所」による 国内初の認定コースとして選出されたことを発信 していきます。	既存	新規	・ランナースインフォメーション研究所の国内初認定のコースであることをPRする。	A
				・平坦なコースが続く 4.5km のコースは一般の方にも楽しんでもらえるコースであることも発信していきます。	既存		・4.5 kmのコース（ダム堤体を中心に 1 周するコース）はきつい坂もないので、競技者でなく一般の方に楽しめる施設である。	C
				・サイクリングコースの多様な活用に向け、マラソンや駅伝などの 他の利用方法を検討 していきます。	新規		・サイクリング競技コースの開放を検討する。	A
(14)-2 レンタサイクルの実施	短期	サイクリングコースの活用	道の駅おろちの里	・一般の方にサイクリングコースを楽しんでもらうために、道の駅「おろちの里」を拠点として レンタサイクルを実施 していきます。	新規	新規	・道の駅を拠点としたレンタサイクルを検討する。	A
(14)-3 サイクリングコースの改善	後期	サイクリングコースの魅力向上	サイクリングコース	・ サイクリングコースの魅力を向上 させるために、サイクリングコースへの藤棚を設置し、夏場の日差しを軽減させるなどの改善を図ります。	新規	新規	・夏のサイクリングは暑いので、藤棚などを設置して日差しを防ぐ。	C

プロジェクトの分類(15)さくらおろち湖の活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(15)-1 湖面利用の活性化(水陸両用バス、シーカヤック、巡視体験)	短期 (先行)	さくらおろち湖の 魅力向上	さくらおろち湖	・さくらおろち湖の魅力を向上させるために、さくらおろち湖での 湖面利用を活発化 していきます。	既存	新規	・水陸両用バスを活用した湖上観光を検討する。	A
				【参考取組事（例）】 ・水陸両用バスによる湖上観光や、シーカヤックを利用したイベントの開催、湖面いかだレースの開催、屋形船の導入などを検討します。			・堀川遊覧と連携して、湖面の巡視体験を実施する。	A
							・シーカヤックなど、人を呼びやすいイベントを実施する。	A
					・トライアスロン大会を開催（湖面のスイムと自転車、ランニングができるため周辺で完結することが可能）する。		C	
					・サイクリングコースと連携して、 トライアスロン大会 の実施の可能性についても検討します。		新規	・屋形船を浮かべる企画を検討する。
						・湖面いかだレースを開催する。	C	
(15)-2 さくらおろち湖の魅力発信	短期	さくらおろち湖の 魅力発信	さくらおろち湖	・様々な角度からさくらおろち湖の魅力を発信していくために、 ダム湖の形状クイズ などを実施していきます。	新規	新規	・尾原ダムはヒゲを生やしたおじいさんに見える。	B
							・ダム湖の形状クイズを実施する。	B

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(15)-3 釣り利用（PR・大会・施設整備）	短期 （先行）	さくらおろち湖の 魅力発掘 釣り利用の活発化	さくらおろち湖	・さくらおろち湖の新たな利用者を獲得するために、 さくらおろち湖での釣り大会の実施 の可能性を検討します。	新規	新規	・釣り大会はいいと思う。	A
				・関連団体等との調整を実施した上で、 釣りスポットの整備 など、ダム湖と川に親しめる取組を実施し、さくらおろち湖の魅力を向上させていきます。	新規		・釣り大会を実施する。	A
							・釣りのフリーゾーン（何を釣ってもよい場所）を設定する。	C
							・魚釣りスポットの整備など、川に親しめる取組などを行う。	B
				・道の駅「おろちの里」での鑑札の販売など、 簡易に釣り利用を図ることが出来る仕組み を検討していきます。	新規		・鑑札が必要な魚種と不要な魚種を明確にし、広報を行う。	C
							・鑑札を道の駅で販売する。	C

プロジェクトの分類(16) 既存施設等の活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(16)-1 芝生広場等の利用促進	短期	施設の有効活用	芝生広場	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された 芝生広場を有効に活用 するために、大人から子供までが遊べる施設であることを発信していきます。	既存	新規	・大人と子どもが一緒に遊べる場所として活用する。	C
				・様々な活用方法を実施していくために、 適正な芝生管理を推進 していきます。	新規		・施設の利用を固定化しない取組を行う。	C
							・サッカーなどのスポーツ交流ができる芝生管理を行う。	C
(16)-2 農村研究施設の利用促進	短期 （先行）	施設の有効活用	農村研究施設	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された 農村研究施設を有効活用 するために、併設されている宿泊施設での体験学習会や、小中学生を対象とした合宿研修の利用などをPRしていきます。	既存	新規	・宿泊施設を利用した体験学習の構想はある。	A
							・施設の利用を固定化しない取組を行う。	C
				・広大な農地を活用した「 かぼちゃの吊り下げ栽培 」の企画なども検討していきます。	新規		・県内外小中学生などを対象とした合宿研修等の利用をPRする。	A
(16)-3 ホースセラピーの利用促進	短期 （先行）	施設の有効活用	ホースセラピー	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備している ホースセラピーを有効活用 し、心の癒し企画を検討していきます。	新規	既存	・ホースセラピーの施設（約 200 m ² ）が平成 25 年度に完成する予定である。	A
							・施設の利用を固定化しない取組を行う。	C
				・農村研究施設や周辺の 農地と連携した体験プログラムの企画 などを検討していきます。	既存		・ホースセラピーや農村体験など、不登校児対象の心の癒し企画を検討する。	A
(16)-4 街道・登山道の活用（殿様街道、岩伏山）	短期 （先行）	施設の有効活用	岩伏山登山道 殿様街道	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された 岩伏山の登山道を有効活用 するために、小中学生による登山企画などを実施していきます。	既存	既存	・スポーツ少年団により岩伏山登山が復活したため、登山道が整備された。	A
							・施設の利用を固定化しない取組を行う。	C
				・ トレイルランニングのコース として整備された殿様街道の保全活動やイベントの企画などを実施していきます。	既存		・トレイルランニングと連携した道の保全活動に取組む。	B
							・登山道を歩くイベントを検討する。	B
(16)-5 利用ルールの方策・周知（湖面利用の手引き等）	短期 （先行）	施設の適正利用	既存施設	・水源地域と他地域との交流促進による水源地域の活性化、公共施設の適正な管理を行うために、「 さくらおろち湖周辺及び湖面利用に関する手引き 」を充実し、適正に運用します。	既存	既存	・施設の利用を固定化しない取組を行う。	C
							・イベント活用に向けたルール作りを行う。	C
				・周辺の施設を利用する際の 手続きの簡素化や窓口の一元化 の可能性も模索します。	既存		・施設の利用許可手続きを簡素化する。	C

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(16)-6 新たな活用策の検討（星空観察会、ドックラン等）	中期	施設の魅力向上	道の駅おろちの里 尾白広場 ホースセラピー 自転車競技施設 ボート競技施設	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された様々な施設の魅力を向上させるために、 施設を活用した活性化策を検討 していきます。 【参考取組（例）】 ・ボート競技施設周辺での オートキャンプ場 の整備や、愛犬家を対象とした「 ドックラン 」施設の整備、水源地域の暗さを活かした 星空観察会 の開催などを検討していきます。	新規	新規	・ボート競技施設に炭の捨て場と洗い場（水道は通じている）を整備し、オートキャンプ場として兼用する。	C
							・エリアや期間について情報提供を行う。	C
							・施設の利用を固定化しない取組を行う。	C
							・道の駅の隣に愛犬家を対象としたドッグランの整備を検討する。	A
							・星空観察会の場所づくりをする。広く暗く安全な場所（例：尾白広場やホースセラピー場、自転車競技施設など）がよい。	C
							・星座や流星群など、星空観察会を開催する。	C
(16)-7 イベントの企画・立案（交流、花火等）	短期（先行）	水源地域の魅力向上 新たな観光客の獲得	さくらおろち湖 さくらおろち湖周辺 尾原ダム（堤頂道路） さくらおろち湖に架かる橋	・水源地域の魅力を向上させるために既存施設を活用し、尾原ダム（さくらおろち湖）を念頭においたイベントの企画・立案を図ります。	既存	新規	・シーカヤック、トレイルラン、ランニングの３点セットをNPO 法人が主催して企画しているが、ホースセラピーも加えて企画する。	A
				・大音量を流すことができる水源地域の立地特性を活かした 音楽イベント や、ダム湖での 花火大会 の開催の可能性を検討していきます。	新規		・三十三間堂のようなイベントを企画する。	B
							・鯉のぼりの代わりにオロチのぼりを作って特色を出す。	B
							・継続のために、尾原ダムという共通看板の元で「素敵な交流企画」を立案する。	C
				・堤頂道路の直線を活かしたイベントや、さくらおろち湖とサイクリングコースを活かしたトライアスロン大会の実施、関連団体が連携・協働したイベントの開催なども模索します。	新規		・小中学校との交流、商工会や市・町が企画するイベント、各団体が行うイベント、などを活発に行う。	C
							・音楽イベントや花火など、大きい音が出せる田舎ならではのイベントをもっと開催し、若者に来てもらう。	C
							・冬の実施も念頭に、ダム湖の花火大会を検討する。	A
				・新たなイベントとして様々な可能性（ボウリング大会や、綱引き大会、障害物競走、ペットボトルロケット大会、遠投大会、雪合戦、バンジージャンプなど）を検討していきます。	新規		・ボールを投げて毎年記録を付けるイベントを企画する。	B
							・堤頂道路を活用したボウリング大会を企画する。	B
							・堤頂道路の長さを活かした競争や障害競走を企画する。	B
							・市と町の境界で綱引き大会を企画する。	B
							・トライアスロン大会を開催（湖面のスイムと自転車、ランニングができるため周辺で完結することが可能）する。	C
							・ペットボトルロケット打ち上げイベント（湖面の目標に目がけて発射するなど）を開催する。	C
				・冬季に雪合戦大会を開催する。	C			
				・大風揚げ大会を開催する。	C			
				・橋からのバンジージャンプを企画する。	B			

大分類Ⅹ歴史・文化の継承

プロジェクトの分類(17)神話の継承・活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(17)-1 出雲神話の活用・PR（マップ作り、関連ツアー）	短期 （先行）	神話の継承・活用 神話の発掘	出雲神話にゆかりのある地域	・水源地域に伝わる出雲神話を掘り起こし、それらの 伝承地（岩伏山頂上、長者屋敷、天ヶ淵など）を巡る着地型観光ツアーを企画 します。着地型観光ツアーの企画にあたっては、出雲神話と地域の風土、産業との関連など、水源地域全体の過去、現在、未来を把握できる内容になるよう努めます。	新規	新規	・「神話博しまね」の結果を踏まえて神話の活用を考えたい。	A
							・岩伏山頂上の舟形の石には、スサノオ降臨の伝説がある。神社や祠の跡があり、祭りも実施されている。	B
							・長者屋敷など周辺の出雲神話ゆかりの場所を活用する。	B
							・出雲神話にゆかりのある神社や地名を結ぶルートを整理することで、地域の歴史的な資源を観光に活かせる。	A
				・地域内で実践されている 出雲神話に関する活動を支援 するとともに、活動団体のメンバーを講師に地域住民を対象とした学習会の開催やマップや読み物の作成などにより、地域に伝わる貴重な歴史や文化を継承していきます。	新規		・地元向け神話パンフレットの作成や関連ツアーの開催など、地元を知るための取組を実施する。	B
							・神話マップの作成や地元向けの神話教室などを実施する。	C
							・岩伏山をパワースポットとして活用する。	B
							・有名な天ヶ淵では、マイクロバス停車場が整備されており、有効に活用する。	B
							・ヤマタノオロチツアーを拡大させる（雲南市内で実施しているツアーを奥出雲町と連携させコースを拡大させる）。	B

プロジェクトの分類(18)郷土料理の継承・活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(18)-1 郷土料理の継承・活用（焼豆腐、イノシシ料理等）	短期 （先行）	郷土料理の継承・活用	水源地域	・ <u>地域に伝承されている「食」</u> （焼豆腐、笹巻き、イノシシ料理など） <u>を積極的に掘り起こし</u> 、地域住民及び流域の住民に伝承していくための講座を開催します。	既存	既存	・ 宿泊して焼豆腐を作るツアーを企画する。	B
							・ 笹巻きの体験ツアーを検討する。	B
							・ イノシシ料理を提供する。	
				・ 宿泊と料理を結びつけた <u>オーベルジュを活用</u> していきます。	新規		・ 地元の食材を使い、特産品をお客さん自身で調理する仕組みを検討する。	B
							・ オーベルジュとして湯乃上館の利用を促進する。	C
(18)-2 モニターツアーの開催	短期 （先行）	水源地域の魅力の発信	水源地域	・ 現在実施している <u>郷土料理を楽しむモニターツアー</u> を継続・拡大させ、郷土料理を通じた水源地域の魅力を発信していきます。	既存	既存	・ 郷土料理のバイキングレストランモニターツアー（NPO さくらおろちの取組）を拡大させる。	B

プロジェクトの分類(19)地域文化の継承・活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(19)-1 古民家の活用	短期 （先行）	地域文化の継承・活用	みざわの館	水源地域の地域文化を継承・活用するために移築された「みざわの館」を観光拠点の一つとして積極的に活用していきます。	既存	既存	・古い農家の一部を建て直し、昔ながらの生活環境を見せる観光施設とした取組（みざわの館）を活用する。	B

大分類ⅩⅠ 新たな魅力・資源の発掘

プロジェクトの分類(20) 新たな魅力・資源の発掘・活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(20)-1 温泉の活用（スタンプラリー）	短期（先行）	施設間の連携 施設の活用	長者の湯	・水源地域周辺に立地する温泉施設間の連携を促進するために、 温泉スタンプラリー を企画・実施していきます。 【参考取組（例）】 ・既に実施されている「うんなん湯たんぷラリー」を参考にしていきます。	既存	既存	・温泉スタンプラリーなどを実施する。	C

プロジェクトの分類(21) 「地域全体」の発掘・活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(21)-1 観光資源の再整理	短期（先行）	地域資源の整理 地域の魅力の発掘	水源地域	・水源地域として、 観光の拠点として発信する施設の選定 を行います。	新規	新規	・これまでに挙げられた様々な地域資源を守り、活かしていくためには、総じて「継続」、「マンパワー」、全体を繋ぐ「ストーリー」が必要である。	C
				・資源の再整理にあたっては、 斐伊川の歴史とヤマタノオロチの伝承 を流域全体で繋ぐなど、自然とその背景をストーリーで繋ぎ、地域全体として魅力を発信していきます。	新規		・「ストーリー」には、斐伊川の歴史とヤマタノオロチの伝承を広域で繋ぐような視点があると面白い。	C
							・全ての施設を観光資源にしようとするのではなく、地元の意向と照らしながら観光資源としてもよい施設の選定をする。	B
(21)-2 地域体感ツアーの開催	短期（先行）	新しい魅力の発信	水源地域	・水源地域の新しい魅力を広く発信するために、 地域体感ツアーを企画・開催 していきます。	既存	新規	・日帰りツアーを開催している。	B
					既存		・竹ノ内では、都市部から人を呼び、雪体験を実施している。	B
				・都心部の住民が珍しく、体験したいと感じる雪かきなどの雪体験ツアーの開催などを検討します。	既存		・イベントへの参加が特典につながるような仕掛け（例：清嵐荘の宿泊など）を行う。	C
				・地域体感ツアーの開催にあたっては、水源地域の魅力の一つである温泉や宿泊施設などとの連携も模索します。	新規		・地元を体感するツアーを企画する。	B
					新規		・大阪や広島など雪が珍しい地区を対象に、雪かきなど雪の体験バスツアーを企画する。	B
				・ ツアーエージェントを対象としたツアー企画 を実施し、水源地域の魅力を活用したツアーの造成を依頼します。	新規		・温泉に宿泊するイベントや体験ツアーを企画する。	C
							・ツアーエージェントによる周辺をめぐるツアーを企画する。	C

プロジェクトの分類(22) 漁業資源の育成と活用

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(22)-1 漁業資源の創出（ワカサギの放流）	短期（先行）	新しい地域資源の獲得	さくらおろち湖	・新しい地域資源としてさくらおろち湖への ワカサギの放流 を継続します。	既存	既存	・ワカサギの卵の放流を継続する。	A
				・放流したワカサギは、漁業資源としてだけではなく、 冬季の観光資源 としての活用も模索します。	既存			

プロジェクトの分類(23)特産品の開発・販売

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(23)-1 特産品の開発・販売促進	短期 （先行）	地域産業の振興 地 域 の 魅 力 の 発 掘 ・ 発信	水源地域	・水源地域に豊富な湧水や豊かな森林から生産される木材資源、新鮮で高品質な農作物、さくらおろち湖を特色づける特産品、出雲神話に関連する商品など、水源地域ならではの素材を用いた個性ある商品の開発を行います（※）。 ※具体的な商品としては、ブラックバスや、川魚、食用ほおずき「おろちの真珠」、ヤーコン、コリンキー、サラダ用カボチャ、イノシシ肉、湧水・名水などを想定します。	既存	新規	・食べるとおいしいブラックバスの特産品化する。	A
							・川魚の商品化を検討する。	A
							・山菜の商品化と販売を実施する。	A
							・出雲神話由来のオロチを道の駅の商品名に活用する（例：食用ほおずきを「おろちの真珠」として登録商標化済み）。	A
							・特産化しつつある健康食品ヤーコンのレシピを道の駅で販売する。	A
				・開発した特産品を「水源地域ブランド」として認定し、全国へ発信・販売を行うことにより資源地域の認知度を向上させます。	既存		・コリンキー、サラダ用カボチャの量産化を図る。	A
							・イノシシ肉を商品開発する。	A
							・ダム本体脇の湧水を、神話由来のネーミングで売り出す。	A
							・山の水を使った商品を検討する。	A
				・開発した特産品の販売促進を図るため、出雲神話に由来するネーミングの設定などを検討していきます。	新規		・名水の探索を実施する。	B
							・平田カブのような特産品を作る。	B

大分類ⅩⅡ交流イベント（既存）の開催

プロジェクトの分類(24)湖面イベントの開催

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(24)-1 ボート大会の活発化	短期 （先行）	さくらおろち湖・ ボート競技施設の 活用 賑わいの創出	さくらおろち湖	・さくらおろち湖に完成した認定コースを活用した レガッタ大会やボート競技大会 を誘致します。	既存	既存	・ボート大会などを実施する。	C
				・現在斐伊川で開催されている 子供向けのボート教室 のさくらおろち湖での実施や、流域住民を対象とした体験教室などを開催し、ボートやカヌー、ヨット等を通した水源地域の認知度の向上を目指します。（※）	既存			

※過年度までのヒアリング結果をもとに取組内容を記載しました。

プロジェクトの分類(25)湖畔イベントの開催

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(25)-1 音楽イベントの開催	短期 （先行）	賑わいの創出 観光客の獲得	芝生広場	・水源地域の賑わい創出、及び若者が参加できるイベントを開催するために、平成 24 年に実施された 音楽イベント （幸雲南 DAY ROCK FESTIVAL）を継続して実施していきます。	既存	既存	・音楽イベント（「幸雲南 DAY ROCK FESTIVAL」など）を継続的に実施する。	C
(25)-2 サイクリングイベントの開催	短期 （先行）	自転車競技施設の 活用 賑わいの創出	自転車競技施設	・既に実施されている サイクリング大会 や紅葉サイクリングを継続・発展させていきます。	既存	既存	・サイクリング関連イベントの企画と実施を行っている。	A
				・ MTB や BMX 大会 の実施や、子供サイクリング教室なども企画し、サイクリングを通した上下流交流や地域活性化を目指します。（※）	既存		・紅葉サイクリングを実施する。	A
(25)-3 さくらおろち湖祭りの開催	短期 （先行）	賑わいの創出 観光客の獲得	ボート競技施設 尾原ダム さくらおろち湖	・「さくらおろち湖祭り」を継続・発展させることで、 水源地域への観光客を呼び込み 、水源地域の活性化につなげます。	既存	既存		
				・「さくらおろち湖祭り」については、地元ボート協会と連携し、ダム湖面も活用したプログラムも検討します。（※）	既存			

※過年度までのヒアリング結果をもとに取組内容を記載しました。

プロジェクトの分類(26)周辺イベントの開催・継続

プロジェクト（案）	実施時期	目的	場所	取組内容	取組状況		さくらおろちを活性化する会での意見	提案班
(26)-1 そばうち交流会の開催	短期 （先行）	上下流交流	水源地域	・水源地域の特産品を通した上下流交流を実施するために、下流域の住民との「 そばうち交流会 」を継続して実施していきます。	既存	既存	・そば打ちなど食の体験イベントを行い、人を呼び込む。	C
							・既存の活動を大切にしていく。	A
(26)-2 トレイルランニングの開催	短期 （先行）	地域資源の活用 上下流交流	殿様街道	・水源地域の資源を活用した上下流交流を実施するために、さくらおろち湖から出雲神話の舞台であり、松江藩主が通った殿様街道を駆け巡る トレイルランニング大会を継続 して実施していきます。	既存	既存	・トレイルランニング大会を継続し、発展させる。	A
							・既存の活動を大切にしていく。	A
							・街道を使ったトレイルランニング対策を継続して実施する。	B